

有害物質の排出抑止

廃食用油を燃料に

小平 公用車にSVOシステム

【小平】天ぷら油で車の運転を。町は、有害物質の排出を低く抑えて

環境にやさしい植物油を燃料としたSVOディーゼル発電システムを公用

車に搭載し、このほど運用を開始した。約六十万円をかけて初めて導入

者が回収して札幌市の業者が処分している。十四年度は四千二百リットル（ドラム缶約二十本分）が排出された。

生活環境課が所有する

公用車（ディーゼル車）は、年間千二百リットルの軽油を使用していたが、町内で排出される廃食用油を燃料として有効利用しようとして、同システムの導入を決めた。

SVOは、ストレート・ベジタブル・オイルの略で、植物油百％の燃料という意味。廃植物油をディーゼル用燃料として利用する発電システム。

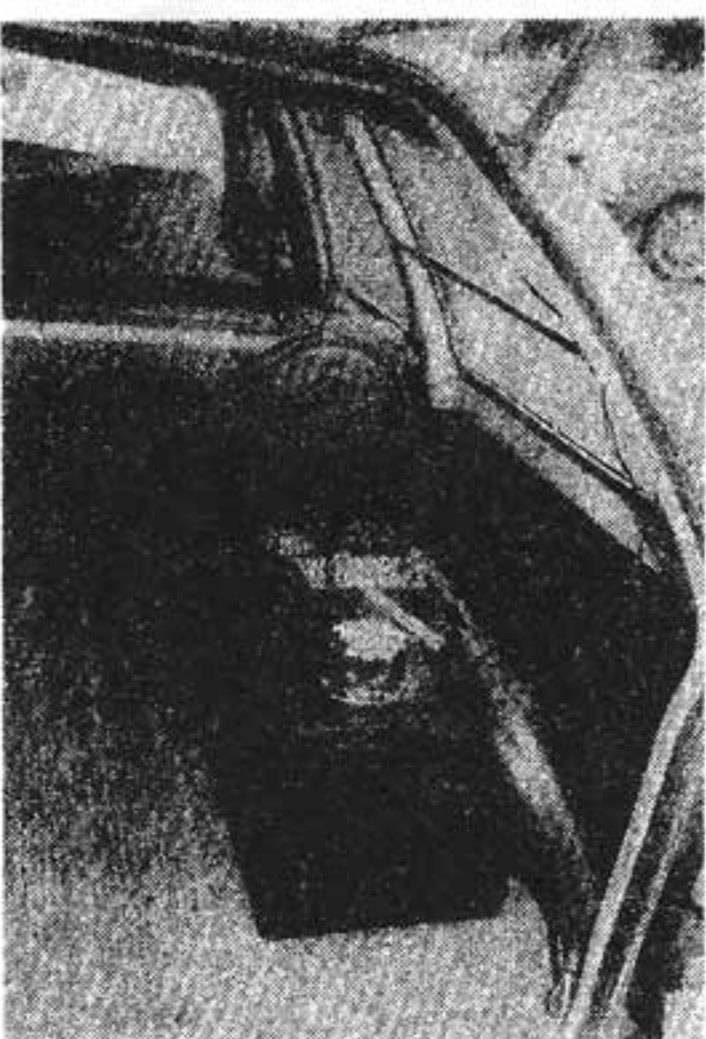
廃油などの処理コストやエネルギーコストの削減を特徴とする。

試験データでは、植物油を燃料として使用するため、大気汚染の大きな原因となるディーゼル機関から排出される二酸化炭素や窒素酸化物、硫酸

酸化物が軽油に比べて低く、逆に酸素が多い。また燃料消費量やパワーなどが、一般に使用されている軽油とほとんど変わらないという。

気温が下がる冬に植物油が固まるため、北海道など寒冷地は不向きとされていたが、スイッチ一つで軽油と植物油との切り替えができるため、始動時に軽油で運転すると問題をクリア。約五分間の運転で燃料タンクが温まり、その後は問題なく植物油で走行できる。

システムは、ディーゼル車に専用タンクを取り付け、パイプをつなぐだけで一日あればできる。町の公用車には四十五リットルタンクを取り付けた。三年で減価償却ができ、町は「アメリカでは二十万の走行でも大丈夫だ」と話している。



小平町の公用車に設置されたSVOディーゼル発電システム